

■ 市民アンケート調査結果の概要

項目		今回調査結果の概要	前回調査からの変化	
1. 回答者について	①属性	・男性が約 34%、女性が約 44%、65 歳以上が約 40%、勤め人が約 31%、主婦・無職が約 41% ・免許保有率約 82%、自動車保有率約 78%	—	
	②最寄り公共交通	・最寄りの公共交通は、JR 鶴沼駅・名鉄新鶴沼駅、JR 那加駅、ふれあいバスが多い ・鉄道駅・バス停までの距離は 500m 以内の人が約 53%、1km までで約 82%	—	
2. 日常の交通行動	①鉄道の利用状況	利用頻度	・平日の毎日以上利用する人が約 10%。緑苑小学校区の利用頻度が多い	・「平日のみほぼ毎日」以上の頻度で利用する人は前回調査（約 7%）から 増加 ・「週に 3～4 日」以上を地区別にみると、緑苑小学校で前回調査から 増加
		非利用理由	・「駅までの交通手段がない」、「行きたい場所に行けない」ため、鉄道を利用していない	・非利用理由上位 2 位は前回調査と同じ ・「行きたい場所に行けない」、「時間がかかりすぎる」が前回調査から 減少 し、「行きたい時間に列車がない」が前回調査から 増加
		利用目的	・「飲食・娯楽」、「買物」目的の鉄道利用が多い	・前回調査と同様の傾向
		目的地	・市外へは名古屋市、岐阜市への移動で鉄道を利用する人が多い	・前回調査と同様の傾向
		利用駅	・JR 那加駅、名鉄新鶴沼駅、JR 蘇原駅、名鉄各務原市役所前駅の利用が多い	・前回調査から利用率が低下している駅が多い中、JR 那加駅、JR 蘇原駅、JR 鶴沼駅では若干利用率が 増加
		駅までの交通手段	・駅までの交通手段は、徒歩、自動車、自転が多い	・前回調査と同様の傾向であるが、自動車利用の内訳で送迎の割合が前回から 増加
		利用時間帯	・鉄道利用のピークは、行きは 7 時台・10 時台、帰りは 16 時台	・前回調査から若干前の時間帯にウェイトがシフト
	②バスの利用状況	利用頻度	・7 割の人がバスを利用していない	・緑苑小学校区、各務・八木山小学校区では前回調査から利用者が 増加
		非利用理由	・「行きたい時間にバスがない」、「行きたい場所に行けない」ため、バスを利用していない	・「行きたい場所に行けない」、「時間がかかりすぎる」が前回調査から 増加
		利用目的	・「通院・検診」「買物」「飲食・娯楽」目的のバス利用が多い	・前回調査と同様の傾向
		目的地	・市外へは岐阜市、名古屋市への移動でバスを利用する人が多い	・前回調査と同様の傾向
		利用バス	・日頃利用するバスは、ふれあいバス・ふれあいタクシー約 17%、路線バス約 13%	・前回調査と同様の傾向
		バス停までの交通手段	・バス停までの交通手段は、徒歩が大半	・前回調査と同様の傾向
		乗り継ぎ先	・バスの乗り継ぎ先は、名鉄新鶴沼駅が多い	・前回調査と比較すると、ふれあいバスの割合が若干 増加
利用時間帯	・バス利用のピークは、行きは 9 時台（約 20%）、帰りは 16 時（約 15%）	・前回調査と同様の傾向		
③この 1 年間に利用した民間路線バス	・民間路線バスを利用していない人が約 67%。イオンモール各務原線の利用が多い	—		
④今後利用する見込みがある民間路線バス	・今後も民間路線バスを利用しない人が約 50%。利用路線は現況と同じ路線	—		
3. 公共交通の満足度と重要度	①鉄道の満足度と重要度	JR 高山本線	・総合的満足度率は約 29% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、運行本数、自宅から駅までの利便性、駅の自動車駐車場、時刻表や乗り継ぎの情報案内	・総合的満足率は前回調査から 増加 ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査と同様の傾向
		名鉄犬山線	・総合的満足度率は約 52% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、自宅から駅までの利便性、運賃	・総合的満足率は前回調査から 増加 ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査と同様の傾向
		名鉄各務原線	・総合的満足度率は約 52% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、自宅から駅までの利便性、運賃。	・総合的満足率は前回調査から 増加 ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査と同様の傾向
	②路線バスの満足度と重要度	・総合的満足率は約 27% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、運行本数、運賃 ・運行本数、最終の時間に関する要望が多い	・すべての項目で満足率が前回調査から 増加 ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査から 減少	
②ふれあいバスの満足度と重要度	・総合的満足率は約 33% ・満足度が低く、重要度が高い項目は、「運行本数」、「行きたい方向とバスルートの整合性」、「乗り継ぎの利便性」 ・運行本数、最終の時間に関する要望が多い	・すべての項目で満足率が前回調査から 増加 ・満足度が低く、重要度が高い項目は、前回調査と同様の傾向 ・特に川島地区での運行本数、最終の時間に対する不満割合が大幅に 増加		
4. ふれあいバスのあり方	・ふれあいバスに期待する役割は、交通不便者の移動手段（約 93%）、路線バスのない地域の移動手段（約 87%）、通院や買物などの日常の移動手段（約 78%） ・ふれあいバスが果たしていない役割は、通勤・通学対応（約 38%）、市外施設へのアクセス（約 31%） ・達成度が低く、重要度が高い項目はなし	・ふれあいバスに期待する役割は、前回調査と同様の傾向 ・ふれあいバスが果たしていない役割も、前回調査と同様の傾向 すべての項目で未達成度が 減少		
5. 自由意見	・運行本数の増便要望が多く寄せられた。多い意見は以下のとおり （運行ルート）東海中央病院、市中心部、駅、大規模商業施設への直通を望む意見が多い。 （運行本数・運行時刻）朝夕の 運行本数の増便、運行時間帯の拡大を望む声が多い 。			